

第110号



# 学校教育情報・堺

平成20年1月8日  
【企画・編集 学校教育部】

## 第3回 全市校園長会 教育長 指示事項

新年おめでとうございます。本年も、各学校園での学校改善や授業改善の参考となる情報を迅速に発信していきたいと考えております。

さて、今号では、1月7日（月）に開催されました本年度第3回全市校園長会での、教育長指示の内容をお知らせします。なお、今号につきましては、全教職員に配布いただき、より一層の学校改善や授業改善に生かしてください。

### 期待と信頼に応え、自信を取り戻そう

あけましておめでとうございます。

新しい年「ね年」は、「子年」と書きます。文字通り、「子ども」を中心に考える一年にしたいと思います。「子」という漢字には、「万物がしげり生ずるさま」といった意味があるようです。子どもたちの持てる力を最大限に引き出し、発揮できるように、我々をはじめ、すべての大人が努力できればと考えます。

#### 1. まず、新年は、本市における「縦につながる教育」の枠組みが大きく前進する年です。

- ① 今年、4月には、新しく「堺市立 堺 高等学校」が開校されます。  
すでに、1月1日付けで、本市立学校園で初めて、民間から校長に就任いただきました。  
「理数・ものづくり・マネジメント」の3系列にわたり、次代を見据えた新しい教育を推進し、縦につながる本市の教育の中で、確固たる位置を占める高校の体制づくりが整ったと考えております。
- ② また、同じく4月に、幼稚園と保育所が連携して一貫した教育・保育を行い、地域における子育て支援機能を備える「堺市立百舌鳥こども園」が開園されます。
- ③ 一方、平成21年4月に開校される(仮称)「堺市立新設養護学校」の諸準備が最終段階を迎えます。

- これら新しい学校園の開設に向けては、関係する多くの教職員の皆様の理解と協力をいただいております。教育委員会としては、新しい学校園の開設に力を注ぐ一方で、当然のことですが、今ある学校園やその子どもたちの教育の充実を大切にしたいと考えています。
- 幼児教育から義務教育、そして高校教育までの「縦につながる教育」の中で、子どもたちが人として豊かにすこやかに成長するため、それぞれの段階で確実に身につけていくことについて、教育委員会としての責任、学校としての責任を果たしたいと考えます。

## 2. そういった意味からも、喫緊の課題は、学力向上です。

全市の学力状況に責任があるのは教育委員会です。  
各学校においても同じ思いでの取組を期待するものです。

- 昨年10月、学力調査の結果報道に接して、眠れなかったという元校長先生がおられました。教員全員の研究授業に取り組んでおられる小学校の先生は、自校の結果に対して「悔しい。今年からの取組なので、来年はきっと成果が現れる」と話されました。ある市民集会では、堺市の学力調査の結果を聞かれた参会者から、驚きとも落胆ともいえない声が広がりました。
- 12月の市議会では、すべての会派より、本市の学力問題についての質問と要望を受けました。今後の取り組みと結果を期待するとの励ましと期待を、重く受け止めました。私は、本会議において、「教育は、子どもの成長にあらわれてこそ成果といえる。理念に上滑りすることなく、子どもに届く教育施策の実施に努めたい」との答弁をいたしました。
- 来年度の実施は、本年4月22日（火）です。
- 全国学力調査については、実施そのものに反対する意見もありますが、「すべての子どもに確かな学力を」との願いは、すべての保護者、市民共通のものであります。そして、それを実現させるのが教職員の務めだと思います。学力調査の平均値や分布を見る限り、本市全体としての学力状況は厳しい状況にあることが明確に分かったのですから、堺全体、そして各学校のチーム力をもって、課題の解決に真正面から迅速に対処したいものです。「学校改善、授業改善のチャンスは毎日」との気持ちでの取組が求められています。
- 昨年のようなすを思い起こせば、43年振りの全国学力調査ということから、その実施に向けては、子どもたちの学力の実態や子どもの持てる力をどのように発揮させてやるかという問題意識よりは、実施の仕方や結果の公表方法などの諸問題に気がついていました。今思えば、調査用紙が手元にのこっていたのですから、子どもといっしょに改めて問題を解いてみることで、どんな学力が求められているのかを研修として取り上げることなどについては、思い至ることが少なかったように思います。
- 一人一人の学力向上を願い、各学校では、日々授業を工夫し、日常的には小テストを繰り返すなどにより学習の習得状況の確かめにも努めてきました。文科省の学力調査は、学力の一部、教育活動の一側面についての調査に違いありませんが、「学習状況調査」も併せて実施され、その客観的な結果が得られたということから、自校の実態を客観的に見直す、またとない機会が得られたと解すべきではないでしょうか。  
(裏に続く)

○ 今回の調査結果の中で、最も重く受け止めなければならない点は、普段行われている授業やテスト内容に対して、見直しと改善が求められている点です。A問題・主として「知識」に関する問題はまずまずとしても、知識・技能の様々な場面での活用や、課題解決の力を主としたB問題に対応する学力が不十分だと分かりました。知識や技能が、活用や課題解決といった面に結びつかないようだとしたら、知識や技能が「基礎・基本」として働くまでの確かな学力につながっていなかったのかもしれませんが、「生きる力」とは「人として生きる力」でもありますが、まず、知識や技能が、「様々な場面で生きる力」として習得されることが求められており、そういった面での指導が十分になされていたかどうかが問われているとも言えます。

「生きる力を育てる」との指導方針はもっていたとしても、普段の授業をささえるまでの学力観にまで熟していない場合があったのではないのでしょうか。とりあげる教材、指導方法、テスト問題の内容、そして、研修方法についても改善の余地があるのではないかと考えるべきではないのでしょうか。

○ 生徒指導上の課題を解決していく上でも、子どもたち自らが、学力向上の達成感や充実感を感じ取れる授業の実現が急務であります。

昨年10月、各学校に調査結果が届いて後、2ヶ月半経ちます。次の学力調査の実施日4月22日（火）まで、3ヶ月と少しです。

#### <各学校での取組は進み始めています>

- ・ 読書教育に力を入れていたことが、国語の学力へ反映したとの手応えを感じることができた学校。
- ・ 「学力向上プラン」を中心に、その具体的実行を進めるための委員会組織を設けた学校。
- ・ すでに定めていた教科の全学年指導プランの見直しに入った学校。
- ・ 市販テストだけに頼らず独自の問題作成を始めた学校。
- ・ これまでの基礎・基本重視の方針をもとにしながらも、国語、算数をはじめ社会や理科など他の教科においても、授業の中に「書く」活動を積極的に取り入れた学校。
- ・ 単元末には必ずまとめや復習、補充の時間を設けることにした学校。
- ・ 国語、数学の問題用紙ではあっても、全教科の先生方に配布し、実際に解いてみて、求められている学力を全教員で確認した中学校。
- ・ 学年ごとに家庭学習時間の目安を決め、保護者にも知らせ、宿題の出し方を工夫した学校。

○ 学校では、国、府、市の調査結果と比較しつつ、学校でのこれまでの取組、子どもの実態などを関連づけ、成果を確認する一方、今後の課題を見出し、指導の改善に動き出す作業を始めています。

○ 管理職の先生をはじめ、すべての先生方の取組が「チーム力」として広がり、学校としての「学力向上プラン」の充実を図り、その具体的で確実な実践を進めることを期待します。

## <教育委員会では>

長期にわたる学力向上施策については予算編成の中で構築するよう調整していますが、短期に緊急的に可能なことについては、速やかな取組を始めています。

- ・ 子どもの生活改善、家庭での学習習慣については、全市的に呼びかけていく課題と考え、リーフレットの作成など、市PTA協議会、校長会とも具体的な相談に入っています。
- ・ 教育センターでは、昨年末より、「授業改善相談会」を始めました。ウィークデーの夜、毎日実施しています。学力本位の内容で、日々の実践に即した自主研修です。先生方が指導主事と気軽に相談できる場になればと思います。専門的な内容については、内容に応じ担当の指導主事に引き継ぎます。私自身も参加し、先生方の声に接する機会を作りたいと考えています。課題追究、課題克服など、自発的な参加を期待しています。
- ・ 教育センターでは、昨年末より始めていますが、教科指導の研修を重点的に実施していきます。
- ・ B問題のような教材・テストの開発については、各学校での取組と並行して、教育委員会においても小・中学校の研究会の先生方の協力を得て、収集と開発に取り組み、情報機器等を活用して3学期から発信する予定です。
- ・ 各学校より提出していただいた「学力向上プラン」については、具体的で確実な実践につながるよう、要請に応じて、担当の指導主事が、情報、教材を提供するほか、授業展開の指導に出かけます。
- ・ 学校では「家庭学習ノート」「家庭学習の手引き」等を作り、家庭での学習習慣を形成しようという試みが生まれています。教育委員会としてもその作成を支援し、よりよいものを作り、他の学校での作成や活用へと広げることができればと考えています。
- ・ 「学力向上に向けた授業改善のヒント」といった内容についても、学校での優れた取組を取り入れつつ、小冊子にまとめるなどの取組を速やかに始めたいと考えています。

### 3. さて、この1年間、コンプライアンス（倫理法令遵守）の徹底が課題でした。

- 昨年には、懲戒免職処分の事案ほか、体罰や個人情報の紛失などが続き、堺の教育への信頼が揺らいでいます。「してはいけないことはしない」がコンプライアンスです。
- 一方、公教育に携わる立場から「しなければならないことはする」ということもコンプライアンスです。堺の子どもたちの学力向上に、組織的継続的に取り組むことについては、「しなければならないこと」と考えます。困難な条件もあるかと思いますが、不十分なままに終わらせることはあってはならないと考えています。

最後になりましたが、

子どもたちの「生きる力」につながる学力を向上させる取組を通して、期待と信頼に応える公教育を実現し、元気な堺の学校、堺の子ども、堺の教職員としての誇りと自信を持ち続けることができたいと思います。教育委員会、各学校、そして保護者、地域住民と、それぞれの立場から、子どもを中心に、「大きく力強いチーム力」を発揮することを共に決意し、新しい年の教育活動を始めたいと思います。